

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 8 年 1 0 月調査結果 - -

( 平成 1 8 年 1 1 月 1 日 )

調査期間：平成 1 8 年 1 0 月 1 9 日 ~ 2 5 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 8 9 業種組合などにヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 8 0 製造業 6 2 2 卸売業 2 3 4  
小売業 7 3 9 サービス業 6 1 4

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題など

## D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

## 業況D Iのマイナス幅は、2カ月ぶりに縮小

10月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（27.0）よりマイナス幅が1.8ポイント縮小して25.2となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

産業別の業況D Iは、卸売、小売でマイナス幅が拡大したものの、他の3業種で縮小した。

景気に関する声、当面する問題としては、各業種から業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声が寄せられている一方、売上単価の低下や消費の低迷など業況低迷、仕入コストの上昇や人件費増による採算悪化、借入金利の上昇懸念、先行き不透明感を訴える声も聞かれる。

【建設業】では、「引き続き増改築工事の件数が増加している」（建築工事）との声がある一方、「銅など資材の仕入コストが昨年と比較して2倍以上も上昇している」（電気工事）、「公共事業、民間工事ともに増加傾向にあるが、依然として受注額は低下傾向にあり、合理化で利益を出そうにも限界が見えてきた」（管工事）との声も寄せられている。

【製造業】では、「業況好調により各企業とも積極的な設備投資を行っており、いざなぎ景気以来の好景気にあることを肌で感じている」（通信機械器具製造）との声がある一方、「売上は前年同月比で増加したが、業況、採算ともに好転したとは言えず、仕入コストも上昇傾向にあるため、先行き不透明感は強い」（他の輸送用機器製造）、「業況は総じて順調に推移しているものの、借入金利上昇への動きが見られるなど、先行き不透明感がぬぐえない」（一般産業用機械製造）と、仕入コストや借入金利の上昇による先行き不透明感を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「先行きに多少の不安はあるものの足元の業況は好調で、売上、採算ともに改善している」（鉱物金属材料卸売）との声がある一方、「昨年同月比で大きな変動はないものの、量販店との競争激化で厳しい状況が続いている」（衣服・日用品卸売）とのコメントのほか、「冬が近づき鍋料理の季節が近づいているが、主力商品である土鍋の売上がまだ盛り上がらない」（他の卸売）と、消費低迷を訴える声が寄せられている。

【小売業】では、「来店者数の増加に伴い売上高も好調を維持しており、個人消費の回復に手ごたえを感じている」（百貨店）との声がある一方で、「地域経済全体が停滞しており、消費者の購買意欲は一向に高まらない」（商店街）とのコメントも寄せられている。また、「競争激化、原油高、金利高、人件費の上昇などの要因が重なり、依然として採算が取れない状況が続いている」（百貨店）と、各種コストの上昇等による影響を訴える声も寄せられている。

【サービス業】では、「軽油価格の上昇がようやく峠を越えようとしている」（運送業）との声がある一方で、「輸送量は増加しているものの、軽油の仕入価格が高水準にあるため、採算が好転しない」（その他サービス）とのコメントも寄せられている。また、「売上は横ばいであるが、同業他社との競争でコストアップ分の価格転嫁ができず、厳しい状況に追い込まれている」（旅館）と、コスト上昇分の価格転嫁難に悩む声が寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が2.5ポイント縮小して16.6となり、2カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売とサービスで拡大したものの建設と小売で縮小し、製造でDI値がマイナスからプラスに転じた。

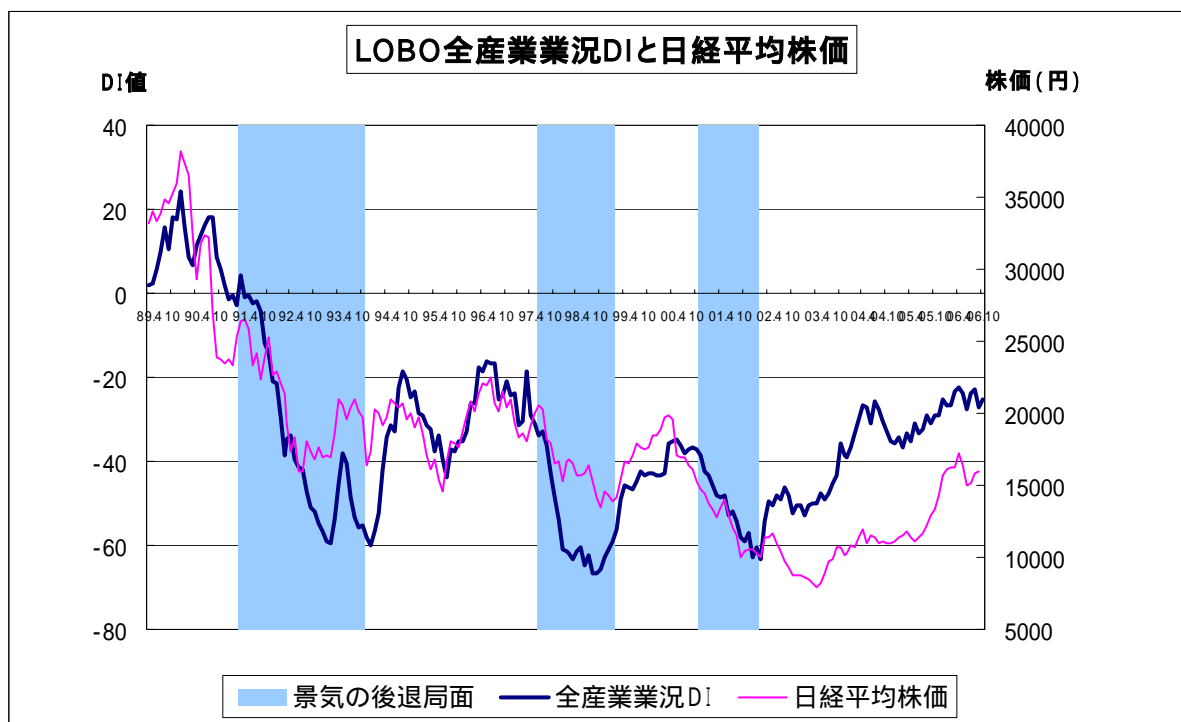
採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が3.1ポイント縮小して26.1となり、2カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売で拡大したものの、他の4業種で縮小した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が0.7ポイント強まって19.2となり、2カ月連続で強まった。産業別にみると、DI値の悪化超感サービスで弱まったものの、他の4業種で強まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価DIは、上昇超感が2.9ポイント弱まって27.1となり、2カ月連続で弱まった。産業別にみると、DI値の上昇超感全業種で弱まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは、過剰超感が0.9ポイント弱まって0.2となり、2カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、DI値はサービスで不足超感が弱まる一方、建設、卸売で過剰超感が弱まり、製造、小売で不足超感が強まった。

向こう3カ月(11月~1月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が20.7と、昨年同時期の先行き見通し(23.5)に比べて改善している。



【業況についての判断】

10月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（27.0）よりマイナス幅が1.8ポイント縮小して25.2となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

産業別にみると、卸売、小売でマイナス幅が拡大したものの、他の3業種で縮小した。

向こう3カ月（11月～1月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が20.7と、昨年同時期の先行き見通し（23.5）に比べて改善している。

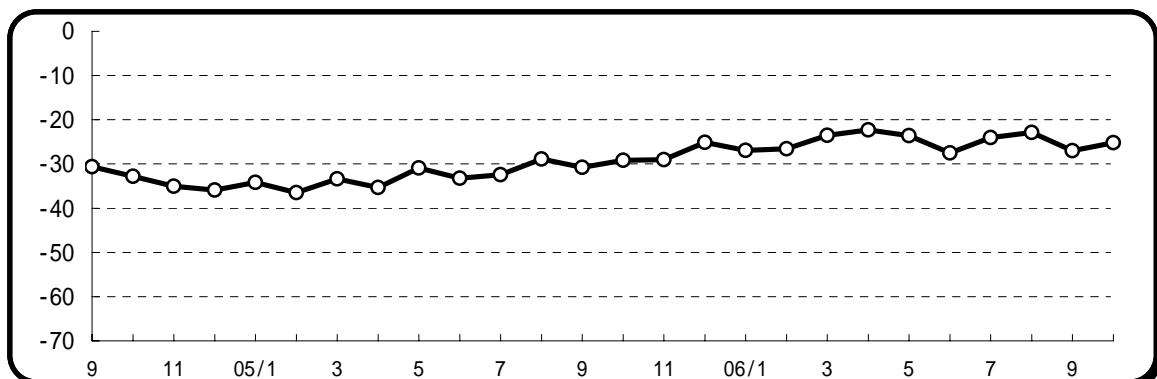
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、建設でマイナス幅が拡大しているものの、他の4業種で縮小している。

業況DI（前年同月比）の推移

	18年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	23.6	27.5	24.0	22.9	27.0	25.2	20.7 (23.5)
建設	40.0	44.1	36.5	34.8	43.1	38.1	36.2 (34.9)
製造	10.5	16.1	8.3	12.8	14.3	13.4	14.8 (17.0)
卸売	32.3	31.5	31.8	30.5	32.9	34.4	20.5 (29.9)
小売	22.4	23.4	22.4	19.7	22.0	23.1	17.7 (22.0)
サービス	24.6	32.5	31.4	26.7	33.3	28.1	20.3 (22.5)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI  
( )内は昨年10月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が2.5ポイント縮小して16.6となり、2カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売とサービスで拡大したものの建設と小売で縮小し、製造でD I値がマイナスからプラスに転じた。

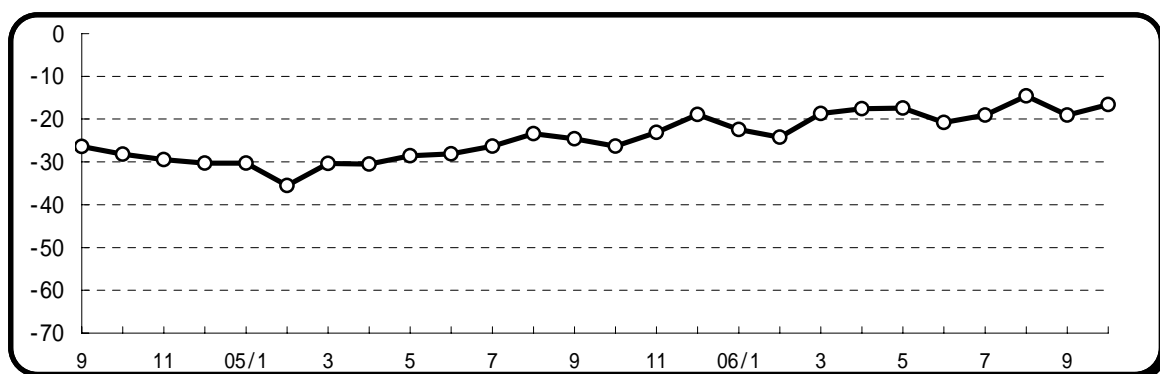
向こう3カ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が13.5と、昨年同時期の先行き見通し(15.7)に比べて改善している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、建設、サービスでマイナス幅が拡大しているものの、他の3業種で縮小している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	18年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	17.4	20.8	19.1	14.6	19.1	16.6	13.5 (15.7)
建設	37.0	38.3	30.9	28.9	34.4	29.6	28.3 (25.1)
製造	0.9	2.3	3.2	3.7	4.8	1.2	5.1 (7.6)
卸売	31.1	23.5	25.5	19.5	20.9	22.9	16.7 (26.1)
小売	20.8	23.4	20.9	14.9	18.3	17.0	9.7 (18.3)
サービス	14.5	25.4	23.4	14.9	23.7	23.8	15.8 (11.4)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が3.1ポイント縮小して26.1となり、2カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売で拡大したものの、他の4業種で縮小した。

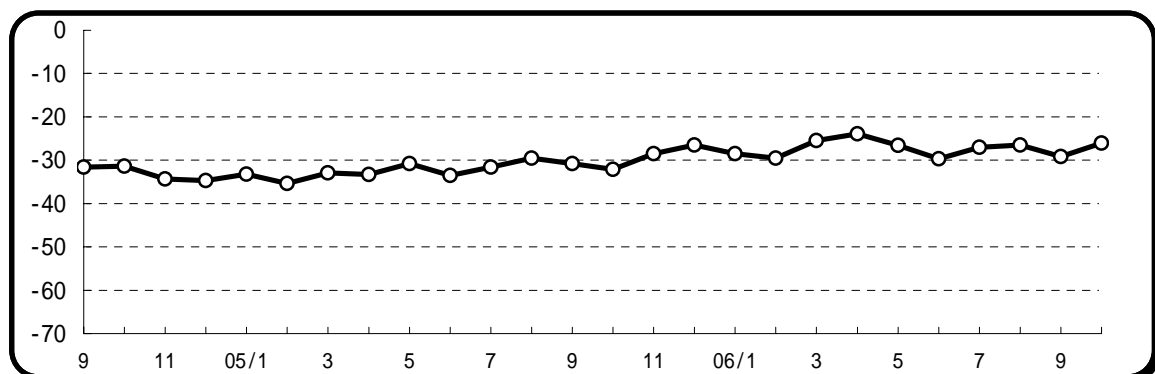
向こう3カ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が20.3と、昨年同時期の先行き見通し(22.8)に比べて改善している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、建設、サービスでマイナス幅が拡大しているものの、他の3業種でマイナス幅が縮小している。

採算D I (前年同月比) の推移

	18年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	26.6	29.7	27.0	26.5	29.2	26.1	20.3 ( 22.8)
建設	45.6	46.6	37.1	39.8	45.2	42.0	37.9 ( 35.7)
製造	21.8	24.3	17.9	23.6	25.9	21.7	16.3 ( 20.2)
卸売	30.5	26.5	32.5	25.6	22.8	29.3	18.6 ( 24.8)
小売	21.4	26.1	23.0	18.5	20.6	18.7	13.1 ( 18.8)
サービス	24.1	30.4	32.6	31.3	34.9	27.8	22.2 ( 21.0)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	18年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	17.8	18.3	17.7	16.9	18.5	19.2	18.2 (16.3)
建設	32.2	34.1	28.9	27.6	30.3	30.8	29.6 (27.0)
製造	11.7	12.4	10.9	11.8	13.3	15.2	15.1 (15.0)
卸売	17.0	17.4	15.8	14.6	11.4	18.2	16.3 (15.1)
小売	15.0	13.6	15.0	13.3	14.4	16.2	13.6 (12.7)
サービス	17.9	19.6	21.8	20.3	23.7	18.7	19.9 (15.1)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が2カ月連続で強まった。産業別にみると、サービスで悪化超感が弱まったものの、他の4業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみると、全業種で悪化超感が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	18年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	24.5	27.1	28.5	31.2	30.0	27.1	20.7 (17.9)
建設	37.3	37.4	38.6	42.0	35.1	34.2	28.1 (29.6)
製造	38.4	41.3	42.3	45.6	47.6	40.7	30.8 (27.3)
卸売	25.0	27.2	36.9	36.0	36.7	34.4	25.0 (15.3)
小売	10.0	13.5	14.3	16.0	14.8	12.7	10.5 (7.8)
サービス	19.7	21.8	21.2	25.5	24.4	23.0	15.9 (13.5)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が2カ月連続で弱まった。産業別にみると、全業種で上昇超感が弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみると、建設で上昇超感が弱まるものの、他の4業種では強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	18年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	1.7	2.1	1.4	0.5	1.1	0.2	3.0 ( 3.9)
建設	21.9	19.0	18.2	17.1	16.4	14.7	13.7 ( 17.8)
製造	2.3	1.8	0.7	3.2	0.2	1.9	4.7 ( 7.7)
卸売	3.7	4.9	8.9	7.3	5.7	3.2	8.3 ( 5.6)
小売	6.7	5.4	6.6	5.4	4.7	5.9	2.3 (4.2)
サービス	2.4	0.2	1.0	2.0	2.5	1.2	1.3 (0.3)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

- 【前年同月比 D I】全産業合計は2カ月ぶりに過剰超感が弱まった。産業別にみると、サービスで不足超感が弱まる一方、建設、卸売で過剰超感が弱まり、製造、小売で不足超感が強まった。
- 【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が弱まる見通し。産業別にみると、卸売で過剰超感が強まり小売で不足超感が弱まる一方、建設、製造で過剰超感が弱まり、サービスで不足超感が強まる見通し。



## 【平成18年10月の景気キーワード】

### 回復への動き

各業種から、業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声が寄せられている。「建売住宅関連の工事が多く非常に忙しい」(伊丹・一般工事)「採算の大きな好転は望めないものの年末に向けて受注額が増加する見通しであり、原油価格の落ち着きで仕入コスト上昇も止まるのではないか」(延岡・建設建築用金属製造)とのコメントが寄せられている。また、「これから秋の観光シーズンが本格化するため、業況回復が実現するよう期待している」(島田・農畜産水産物卸売)「冬物商品が売れ始めたため、売上高はわずかではあるが増加傾向にある」(武蔵野・商店街)との声のほか、「秋の観光シーズンを迎え、15人程のグループでの宿泊が増加している」(赤穂・旅館)とのコメントも寄せられている。

### 悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き公共工事の減少など業況低迷や先行き不透明感、仕入コストの上昇による採算悪化、借入金利の上昇、来店者数低迷を訴える声も寄せられている。建設、製造からは「公共工事の減少が続く中、事業者は業況改善を目指して必死に努力しているが、一向に改善する気配が見えない」(玉名・一般工事)「原油や各種資材コストは依然として高水準にあり、製品価格に転嫁できず厳しい状況が続いている」(大阪・繊維機械製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからは、「輸入物との競争に負けるケースが増え、借入金利の上昇で採算の悪化が懸念される」(福島・農畜産水産物卸売)「休日の来店者数が非常に少なく、業況は非常に厳しい」(福山・商店街)「観光、ビジネスともに宿泊者数が少なく、原油価格高騰の影響も深刻化している」(長野・旅館)とのコメントが寄せられている。

### 仕入・輸送コスト上昇

また、引き続き、高い水準にある原油・素材価格の影響による仕入・輸送コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設、製造からは、「依然として原油高の影響を受けており、重機や車輛にかかる経費は上昇を続けている」(土佐清水・土木工事)「資材の仕入コスト上昇が続く、コスト上昇分を吸収しようにも自助努力は限界を超えている」(神戸・ゴムプラスチック履物製造)「紙やインクなどの仕入コストが高騰しており、売上と比べてコストがかかりすぎている」(長野・印刷)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも「原油高の影響で関連製品の仕入単価が上昇している」(小牧・その他の小売)「燃料価格の上昇分を運賃に転嫁するため、荷主と交渉を行っているが、苦戦を強いられている」(石岡・その他サービス)といったコメントが寄せられている。

## 【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
18年 8月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
9月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
10月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の( )内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「引き続き増改築工事の件数が増加している」(建築工事)との声がある一方、「銅など資材の仕入コストが昨年と比較して2倍以上も上昇している」(電気工事)「公共事業、民間工事ともに増加傾向にあるが、依然として受注額は低下傾向にあり、合理化で利益を出そうにも限界が見えてきた」(管工事)「公共工事の発注は続いているものの業況好転には結びつかず、複数の業者で廃業へ向けた動きが見られる」(土木工事)といった声も寄せられている。
製 造	業況・採算D Iは3カ月ぶり、売上D Iは5カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「業況好調により各企業とも積極的な設備投資を行っており、いざなぎ景気以来の好景気にあることを肌で感じている」(通信機械器具製造)「売上高が順調に推移しており、原油価格も若干ながら下落しているため、今後、コスト減少による採算の好転を見込んでいる」(金属加工機械製造)との声がある一方、「売上は前年同月比で増加したが、業況、採算ともに好転したとは言えず、仕入コストも上昇傾向にあるため、先行き不透明感は強い」(他の輸送用機器製造)「業況は総じて順調に推移しているものの、借入金利上昇への動きが見られるなど、先行き不透明感がぬぐえない」(一般産業用機械製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・売上D Iは2カ月連続、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「先行きに多少の不安はあるものの足元の業況は好調で、売上、採算ともに改善している」(鉱物金属材料卸売)との声がある一方、「昨年同月比で大きな変動はないものの、量販店との競争激化で厳しい状況が続いている」(衣服・日用品卸売)「冬が近づき鍋料理の季節が近づいているが、主力商品である土鍋の売上がまだ盛り上がらない」(他の卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大し、売上・採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「来店者数の増加に伴い売上高も好調を維持しており、個人消費の回復に手ごたえを感じている」(百貨店)「年末に向けて売上増加を見込んでいる」(商店街)との声がある一方、「競争激化、原油高、金利高、人件費の上昇などの要因が重なり、依然として採算が取れない状況が続いている」(百貨店)「地域経済全体が停滞しており、消費者の購買意欲は一向に高まらない」(商店街)といった声が寄せられている。
サービス	業況・採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月連続で拡大した。「依然として地域間格差の存在を感じているが、最近になってようやく業況改善へのわずかな動きが見え始めた」(すし店)、「今後、秋の行楽・観光シーズンでの売上増加に期待している」(食堂・レストラン)「軽油価格の上昇がようやく峠を越えようとしている」(運送業)との声がある一方、「輸送量は増加しているものの、軽油の仕入価格が高水準にあるため、採算が好転しない」(その他サービス)「売上は横ばいであるが、同業他社との競争でコストアップ分の価格転嫁ができず、厳しい状況に追い込まれている」(旅館)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北海道、関東、中国でマイナス幅が拡大したものの、他の6ブロックで縮小した。なお、全ブロック合計は2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

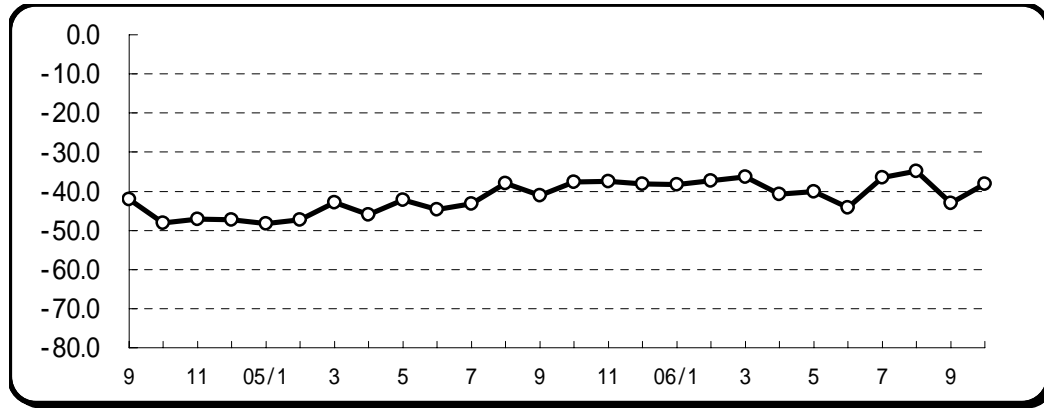
ブロック別の向こう3カ月（11月～1月）の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、東北、関東で悪化したものの、他の7ブロックで改善した。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

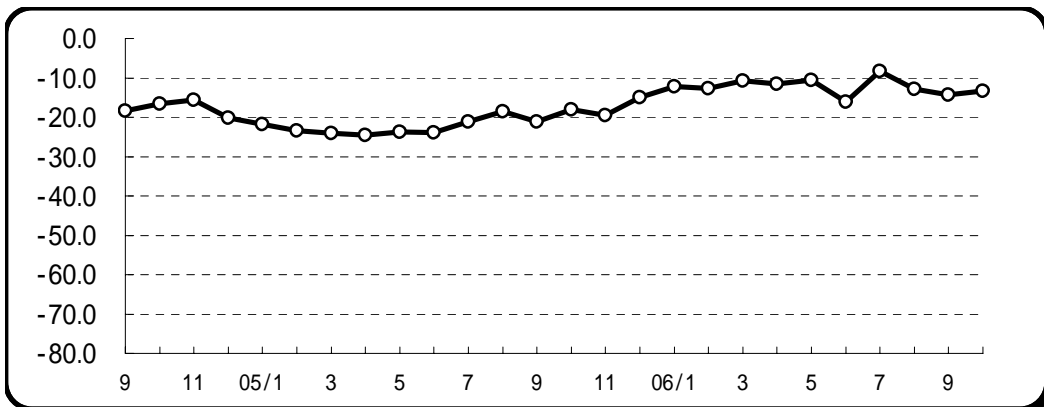
	18年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全 国	23.6	27.5	24.0	22.9	27.0	25.2	20.7 ( 23.5)
北海道	29.4	36.2	20.4	30.6	28.6	30.2	31.3 ( 31.6)
東 北	30.3	33.8	22.4	24.8	33.6	27.7	29.9 ( 27.5)
北陸信越	17.3	25.1	20.8	13.7	18.1	10.6	13.3 ( 20.1)
関 東	21.1	22.6	21.6	15.2	24.3	25.2	18.8 ( 17.7)
東 海	20.8	22.6	17.9	24.2	22.5	20.6	14.3 ( 26.6)
近 畿	25.4	28.5	30.1	29.4	29.4	24.9	23.5 ( 24.6)
中 国	26.9	31.9	30.0	25.9	34.3	37.8	26.1 ( 28.8)
四 国	29.0	40.0	38.1	35.7	36.9	35.3	21.3 ( 22.3)
九 州	20.2	21.0	19.1	20.7	24.2	22.8	15.8 ( 24.3)

# 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

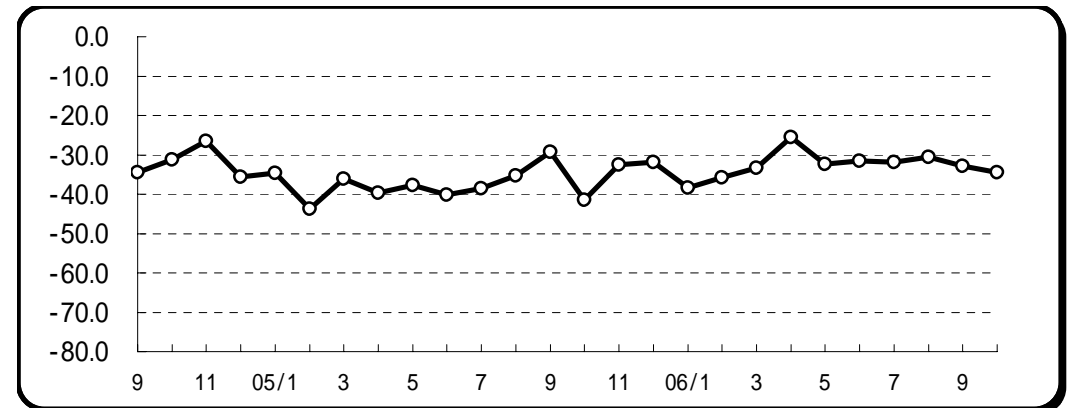
## 建設業



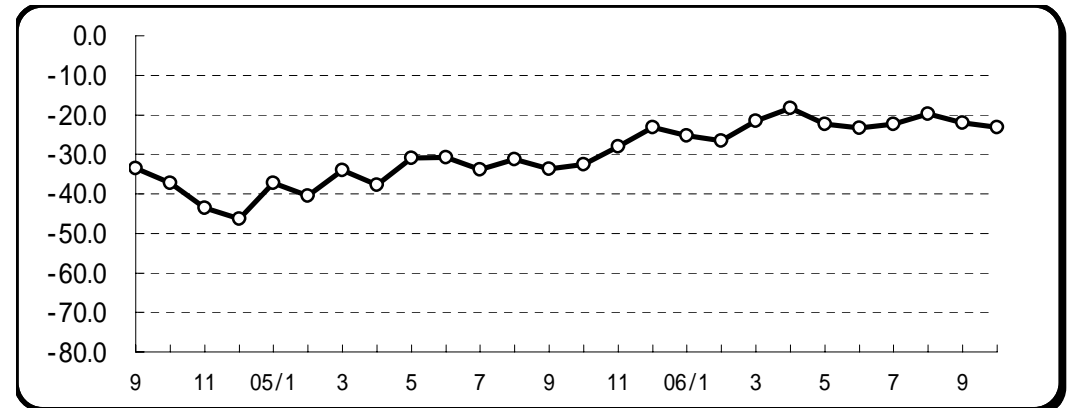
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

